

平成 30 年 3 月 関町図書館指定管理者連絡調整会議 議事要録

日時	平成 30 年 3 月 22 日 (木) 15 時 40 分から 16 時 50 分まで
場所	光が丘図書館 視聴覚室
出席者	<p>(1) 光が丘図書館 (以下「光」)</p> <p>光が丘図書館長、管理係長、運営調整係長・係員 (1)、事業統括係長、子供事業統括係長</p> <p>(2) 関町図書館指定管理者 (株式会社図書館流通センター) (以下「関」)</p> <p>関町図書館長、同館業務従事者 (3)、本社スタッフ (3)</p>
内容	<p>① 施設管理について</p> <p>(光) 館内サイン類の改善について</p> <p>→ (関) 1 月より見直しと改善を行っている。エントランスに大きな地図があるが、さらにエリアごとの表示、書架の表示と大きく三段階に詳細化した形での表示を考えている。利用者用検索機の検索結果から目当ての資料にたどり着くといった流れを考えて、請求記号や独自に付した棚番号をサイン類に表示することも検討している。棚の差し込み板も変更する予定。</p> <p>② 一般事業について</p> <p>(光) 昨年 9 月に開設した上石神井受取窓口の影響はあるか。</p> <p>→ (関) 貸出数や返却数には特に影響は出ていない。利用登録をされる際に住所を見て、上石神井受取窓口の案内をすることがある。</p> <p>(光) 4 月から入居が始まる隣接したマンションについて、何か働きかけをしているか。</p> <p>→ (関) 図書館を案内するチラシを配布する予定。入居当初は住民票を写していない方も多いと思うので、少し時間が経ってから利用説明会や、利用登録会を設けたい。</p> <p>(光) はつらつセンター関への団体貸出について</p> <p>→ (関) センター内に図書館資料を閲覧できるコーナーを設けたもので、団体貸出した資料 150 冊程度を三か月ごとに入れ替えていくもの。2 月に初めて入れ替えを行ったが、センター側からリクエストのあった歴史小説や料理の本、ガイドブックは人気でよく読まれているとのことだった。利用者にアンケートを行い、どんな本が読みたいかを聞いているほか、今回は、「春」テーマにした本も選んで貸出を行った。</p> <p>(光) 「本の修理教室」について、自分の本を持ってきて修理したいという声はあるか。</p> <p>→ (関) 本の修理教室は定期的に開催している事業で、参加者へ本の修理方法を教えながら、図書館で発生した修理本と一緒に修理しているもの。自分や孫が大事にしている本を修理したいという声も聞いているが、修理が失敗した場合のことを考えると、ためらう面がある。会を重ねる中で、修理以外にも、例えば、畑仕事をしながら図鑑を見たいので、本の強度を上げたいなど、明確な目的を持っている方もいた。また修理方法も児童書と一般書では異なる部分もある。今後は、「今回はこういう会です」といった形で打ち出し、テーマに特化した形で開催していくことも考えている。</p> <p>(光) 3 月に実施した「暗やみ本屋ハックツ in 関町図書館 2018」について</p>

→ (関) 暗やみ本屋ハックツは、上石神井地域を中心に活動している有志の方が集まって行っているもので、大人世代がお薦めする本を 10 代に向けて紹介するもの。ただし部屋を暗くして、懐中電灯でポップを確認しながら自分に合った本を探していくという仕掛けがあり、それが「暗やみ本屋ハックツ」という名前になっている。

図書館では、あらかじめ蔵書の中から、利用者に 10 代に推薦する本を選んでもらい、図書館が推薦するものもあわせて 70 冊程度を会議室に展示。一人一冊まで「ハックツ」しての貸出を可能とした。暗い中での本探しは新鮮で大分印象が残るようで、33 人の方が参加された。イベントのほか、「10 代に本を贈る価値について考える」をテーマにミニトークライブも行い、また、ティーンズコーナーに過去の「ハックツ」でお薦めされた本を集めて展示した。今後も、利用者、特に若い世代と本をつなぐ仕組みを考え、いろいろコーディネートしていきたい。

(光) 再開館して今年度が指定管理一年目だったが実施事業の総括を。

→ (関) 図書館サービスも定着してきて、事業も概ね計画通りコンスタントに実施できたと思う。来年度はスケジューリングを行って年間を通じて魅力的な事業を行ってきたい。課題としては青少年向けの事業で、参加者の反響は非常によいので、いかに 10 代世代の若い方の参加者数を増やすか、参加してもらうかという入口のところが課題である。また、ティーンズコーナー自体もより活発なものにしていきたい。

③ 児童・青少年サービス事業について

(光) 講座参加者を対象とした託児サービスについて

→ (関) 今回の託児は、「えほんの講座 子どもといっしょに絵本の庭へ」の参加者を対象として行った。事業と連動した形での託児は初めての試み。「えほん講座」は、子育て世代をターゲットに、「子供と読む絵本を選ぶ」をテーマに実施したが、聞いている親が安心して集中して講座を受けられるようにとの思いで託児も行った。

→ (光) 今後の通常の図書館利用者向けの託児と、事業と連動した託児の実施について

→ (関) 一般の託児サービスの需要があることは実証済みだが、事業と連動した形の需要もあることが今回わかった。来年度はバランスを考えて両方の託児サービスを行ってきたい。

(光) グループ学習室の年間を通した利用について

→ (関) 再開館してから利用者の口コミでどんどん利用が増えていった。現在では、対象者が利用できる時間帯はほぼ埋まっている状態である。別々のグループがお互いにシェアして借りるということもあった。

(光) 学校支援モデル事業について、一年の総括を。

→ (関) 昨年度までは、教育指導課の管理員が入っていたが、今年度はさらに厚みのある支援を行えたと思う。団体貸出については、よく先生の要望や意見を聞いて用意できているので学校側からは使いやすくなったと好評である。一方、学校側のイベント等の情報を後になって知るということがあったので、来年度は学校側の年間予定等も聞いて、早め早めに準備していきたい。